340814-A

使用の前にこの添付文書をよく読むこと。

体外診断用医薬品
製造販売届出番号 09A2X10001000010

**2013年11月改訂（第8版）
*2011年11月改訂（第7版）

クラスⅠ細菌検査用シリーズ　薬剤感受性（一般細菌・ディスク法）キット

KBディスク®‘栄研’

（室　温）

【全般的な注意】

1．本製品は体外診断用医薬品であり、それ以外の目的には使用できない。

2．治療のための抗菌薬の選択は、他の検査結果や臨床症状を考慮して総合的に判断し、担当医師が行うこと。

3．添付文書に記載された内容に従い使用すること。それ以外の方法についての保証はできない。

＊4．使用する機器の取扱説明書をよく読んでから使用すること。

【形状・構造等（キットの構成）】

KBディスク®‘栄研’は、直径6.35mmの円形ろ紙に抗菌薬を含有させ、乾燥したものである。薬剤の種類はろ紙面に印刷された略号（最後の51枚目は斜線印刷）で表示してある。

製品一覧は別表に示したとおりである。

【使用目的】

細菌の各薬剤（別表）に対する感性及び耐性を判定する。

＊【測定原理】

本製品は、Kirby-Bauer法によるディスク拡散法を測定原理としている[1),2)]。

この方法は、Clinical and Laboratory Standards Institute（CLSI）が実施基準を設定し、その後、改訂を重ねて現在に至っている[3),4)]。

【操作上の注意】

1．測定試料の性質・採取法

1）一夜培養した純培養菌を被検菌として使用する。

＊2）寒天平板上の集落から直接被検菌液をつくる場合は、非選択培地（血液寒天培地等）から釣菌する。選択培地で培養した菌株は使用しないこと。

3）被検菌液を調製する際、菌液が濃すぎるときは、滅菌したパールコア®トリプトソイブイヨン培地‘栄研’又は滅菌生理食塩水で調整する。

2．妨害物質・交差反応性

1）純培養菌を用いるので、雑菌汚染のない限り特に影響するものはない。

2）2種類以上の菌が含まれた被検菌を用いると、阻止円が2重になったり、また目的菌の薬剤感受性が測定できないことがある。

【用法・用量（操作方法）】

1．試薬の調製方法

KBディスク®‘栄研’はそのまま使用する。

2．必要な器具・器材・試料等

1）滅菌生理食塩水（菌液調製用）

2）増殖用培地（パールコア®トリプトソイブイヨン培地‘栄研’等）

3）感受性試験用培地（パールコア®ミュラーヒントンS寒天培地‘栄研’等）

4）McFarland標準濁度0.5の懸濁液（標準菌濁度液A‘栄研’）

5）その他（シャーレ，白金耳，滅菌綿棒，ディスペンサー，フラン器，ノギス，ピンセット）

3．測定（操作）法

＊1）感受性試験用培地

ポアメディア®ミュラーヒントンS寒天培地，ポアメディア®ミュラーヒントンSヒツジ血液寒天培地，ポアメディア®ヘモフィルステスト寒天培地（HTM）又は以下の調製した培地を使用する。

パールコア®ミュラーヒントンS寒天培地‘栄研’を、使用方法に従い適量を溶解し、121℃で15分間滅菌した後、45～50℃に冷却して培地の厚さが4mmになるように分注し、平板に固める。内径8.5cmのシャーレでは25mL，角シャーレ1号では75mLを分注すると、培地の厚さはほぼ4mmとなる。

本培地は腸内細菌科，*Vibrio cholerae*，*Pseudomonas aeruginosa*，*Acinetobacter* 属菌，*Stenotrophomonas maltophilia*，*Burkholderia cepacia*，*Staphylococcus* 属菌及び *Enterococcus* 属菌に使用する。肺炎球菌，β溶血レンサ球菌，ビリダンスレンサ球菌及び髄膜炎菌の感受性試験には滅菌，冷却したパールコア®ミュラーヒントンS寒天培地‘栄研’にヒツジ脱線維素血液を5%の割合に添加して調製した血液寒天培地を用いる。CLSIでは*Haemophilus*属菌，淋菌の試験には専用の培地を指定している[3),4)]。

（1）*Haemophilus* 属菌の試験：

滅菌，冷却したパールコア®ミュラーヒントンS寒天培地‘栄研’に次のサプリメントを添加する。15μg/mL β-NAD，15μg/mL bovine又はporcine hematin，5g/L yeast extract

（2）淋菌の試験：

GC培地に次のサプリメントを1%に添加する。

1.1g L-cystine，0.03g guanine HCl，3mg thiamine HCl，13mg PABA，0.01g vitamin B12，0.1g cocarboxylase，0.25g NAD，1g adenine，10g L-glutamine，100g glucose，0.02g ferric nitrate，25.9g L-cysteine HCl

以上を精製水1,000mLに溶解してろ過滅菌する。

＊2）菌液の調製

一夜培養した非選択寒天培地上の被検菌体を釣菌して滅菌生理食塩水又はパールコア®トリプトソイブイヨン培地‘栄研’等に懸濁する方法（直接法）と、一旦、被検菌体をパールコア®トリプトソイブイヨン培地‘栄研’等から調製した液体培地4～5mLに接種して35±2℃で2～6時間培養した後、滅菌生理食塩水又はパールコア®トリプトソイブイヨン培地‘栄研’で菌液濃度を調整する方法（増殖法）とがある。菌種別の菌液調製法は、CLSIに記載されている方法に従う[3)]。いずれの場合も、菌液濃度はMcFarland標準濁度0.5と同じ濁度に合わせる。

3）菌液の接種

2）で調製した被検菌液を調製後15分以内に、1）で調製した寒天平板上に滅菌綿棒で均一に塗抹する。被検菌液に綿棒を浸した後、試験管の内壁上部に綿球を強く押しつけて数回まわし、過剰の菌液を取り除く。

培地を分注、凝固させた円形シャーレでは、上記の綿棒を用いて寒天平板全面に塗抹した後、平板を60°回転させ再度塗抹し、更に60°回転させ塗抹する。また、角シャーレ1号は、たてに置き、たて中央に画線状に画線し、次いで左右上下に塗り広げ、均一に塗抹する。更にシャーレの上下を180°回転させ、綿棒を被検菌液に再度浸した後、この方法をもう1度くり返す。

4）KBディスクを置く

ディスペンサーを用いて、被検菌を接種した寒天平板上にディスクを置く。その際、菌液を塗抹した寒天平板は3～5分間静置し15分までの間にディスクを置く。寒天平板上に斜線で印刷されたディスクが現われたときには新しいカートリッジに交換する。

ディスペンサーを用いない場合は、カートリッジからピンセット等を用いてディスクを取り出し、ディスクとディスクの間が 24mm 以上になるように寒天平板上に置く。
ディスクは平板培地上に完全に密着させること。

＊５）培養

ディスクを置いた寒天平板は、ディスク設置後 15 分以内にフラン器に入れ、下記に示す条件でそれぞれ培養する。

菌　名	菌液調製	培 養 条 件
腸内細菌科，*P. aeruginosa*，*V. cholerae*	直接法又は増殖法	35 ± 2℃；好気環境；16～18 時間
Acinetobacter 属菌，*B. cepacia*，*S. maltophilia*	直接法又は増殖法	35 ± 2℃；好気環境；20～24 時間
＊ *Staphylococcus* 属菌	直接法	35 ± 2℃（MRS は 35℃を超えると検出できない場合がある）；好気環境；16～18 時間（オキサシリン，バンコマイシンの場合は24時間、*S. aureus*, *S. lugdunensis*のセフォキシチンは16～20時間、CNS（*S. lugdunensis* を除く）のセフォキシチンは24時間）
Enterococcus 属菌	直接法又は増殖法	35 ± 2℃；好気環境；16～18 時間（バンコマイシンの場合は24時間）
Haemophilus 属菌	直接法	35 ± 2℃；5%CO_2環境；16～18 時間
肺炎球菌，β 溶血レンサ球菌，ビリダンスレンサ球菌，髄膜炎菌	直接法	35 ± 2℃；5%CO_2環境；20～24 時間
淋菌	直接法	36 ± 1℃（37℃を超えない）；5%CO_2環境；20～24 時間

６）阻止円の測定

完全に菌の発育が阻止されている阻止円の直径をシャーレの裏側からノギスでミリ単位まで測定し、小数点以下は四捨五入する。その際、黒地をバックに反射光を用いて測定する。ただし、*Staphylococcus* 属菌のオキサシリンディスク，バンコマイシンディスク，リネゾリドディスク及び *Enterococcus* 属菌のバンコマイシンディスクは透過光を用いて測定する。血液寒天培地等の不透明な培地を使用した場合には、シャーレのふたを取って反射光で培地表面から測定する。

＜測定にあたっての注意＞

１）サルファ剤系ディスクでは、阻止円内に薄い発育が観察されるが、これは培地中の拮抗物質によるため無視したうえで、明白な円の辺縁を測定する。

２）CLSI で要求されている、専用菌株を用いての精度管理試験でディスクが正しい阻止円を示さない場合は、全ての操作手順を確認すること。

【測定結果の判定法】

計測した阻止円の直径を判定基準（別表）と照合して、感性，中間及び耐性と判定する。

【性　能】

１．性能

１）感度・正確性

日本薬局方外医薬品規格第一部その２、一般試験法、力価試験法、Ⅱ標準曲線法に準じて力価試験を行うとき、表示量の 85～135%に対応する各薬剤を含む。

２）同時再現性

操作方法に従い、感性及び耐性菌を含む試験菌 3 株について、感受性試験を各々 3 回ずつ行い、阻止円の直径を判定基準と照合して判定するとき、感受性菌は感性の成績を、また耐性菌は耐性の成績を示す。

２．測定範囲

感性，中間及び耐性

３．相関性試験成績

本製品で測定した感受性試験成績と、日本化学療法学会；微量液体希釈による MIC 測定法との試験成績は相関する[5)]。

４．較正用基準物質に関する情報

本製品は、アメリカン　タイプ　カルチュアー　コレクション（ATCC）に収載されている菌株により性能を確認している。

【使用上又は取扱い上の注意】

１．取扱い上（危険防止）の注意

１）全ての操作は微生物の取扱いに習熟した人の指導のもとに、バイオハザード対策を実施したうえで行うこと。

２）検体（被検菌）及び培養物等は感染の危険があるものとして十分に注意して取り扱うこと。

３）感染を避けるため、検査時は使い捨て手袋を着用すること。

４）口によるピペッティングはしないこと。

２．使用上の注意

１）ディスクは指定の貯蔵方法で保存すること。

２）使用期限を過ぎたディスクは使わないこと。

３）ディスクは汚染しないように無菌的に取り扱うこと。

４）開封後はなるべく早く（約 2 ヵ月以内に）使用すること。

５）ディスクの吸湿，直射日光への暴露は抗菌薬の力価低下の原因となるため、注意すること。

６）使用後はディスペンサーにカートリッジを装着した状態のまま、乾燥剤が入った専用ボックスに入れて室温に保存する。又はディスペンサーから取り外したカートリッジを、乾燥剤の入ったデシケーターに入れて室温に保存する。使用中のカートリッジは、カートリッジの入っているビンに戻さないこと。

３．廃棄上の注意

１）使用後の培地類は、オートクレーブ等で滅菌処理した後、廃棄すること。オートクレーブを使用する場合は、蒸気を吸い込まないように注意すること。

＊２）検体に接触した器具や廃液等は、次亜塩素酸ナトリウム溶液（有効塩素濃度 1,000ppm 以上，1 時間以上浸漬）又はグルタールアルデヒド（2%，1 時間以上浸漬）による消毒処理、あるいはオートクレーブ（121℃，20 分間以上）による滅菌処理を行うこと。ただし付属機器についてはその取扱説明書に従うこと。

３）試薬ボトルはガラス、キャップはブチルゴム、乾燥剤はシリカゲル、カートリッジは ABS 樹脂、栓はポリエチレン（PE）、ケースは紙を主な材質としている。

４）滅菌後のシャーレや器具等は、医療廃棄物等に関する規定及び、水質汚濁防止法等の各種規制に従い、各施設の責任において処理すること。

【貯蔵方法・有効期間】

貯蔵方法：室温保存
有効期間：別表参照

【包装単位】

51 枚×２

【主要文献】

１）Bauer, A.W., et. al.: Am. J. Clin. Pathol., **45**：493－496, 1966.

２）WHO：Technical Report Series, **610**：98－178, 1977.

＊３）Clinical and Laboratory Standards Institute：CLSI Approved Standard Tenth ed., M2-A10, 2009.

＊４）Clinical and Laboratory Standards Institute：CLSI Nineteenth Informational Supplement, M100-S19, 2009.

５）社内資料

【問い合わせ先】

栄研化学株式会社　お客様相談窓口
フリーダイヤル ☎0120-308-421

【製造販売業者の名称及び住所】

栄研化学株式会社
〒329-0114　栃木県下都賀郡野木町野木 143 番地

製造販売元　栄研化学株式会社
栃木県下都賀郡野木町野木 143 番地

340814-A

＊＊＊別表 （室温製品）

系統	販売名	KB ディスクろ紙略号	構成試薬	成分名	薬剤含有量	製品コード	有効期間	適応菌種	判定基準：阻止円の直径（mm）		
	KB ディスク®‘栄研’								耐性	中間	感性
アミノグリコシド系	カナマイシン	KM	KM	硫酸カナマイシン	30μg（力価）	E-DF04	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*Staphylococcus* 属菌	≦13	14－17	≧18
	ゲンタマイシン	GM	GM	硫酸ゲンタマイシン	10μg（力価）	E-DF05	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌 / *Staphylococcus* 属菌	≦12	13－14	≧15
	ゲンタマイシンⅡ	GMⅡ	GM	硫酸ゲンタマイシン	120μg（力価）	E-DF95	1年6ヵ月間	*Enterococcus* 属菌	6	7－9	≧10
	ジベカシン	DKB	DKB	硫酸ジベカシン	30μg（力価）	E-DF45	1年6ヵ月間		≦14	15－17	≧18
	トブラマイシン	TOB	TOB	トブラマイシン	10μg（力価）	E-DF12	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌 / *Staphylococcus* 属菌	≦12	13－14	≧15
	アミカシン	AMK	AMK	硫酸アミカシン	30μg（力価）	E-DF06	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌 / *Staphylococcus* 属菌	≦14	15－16	≧17
	イセパマイシン	ISP	ISP	硫酸イセパマイシン	30μg（力価）	E-DF92	1年6ヵ月間		≦14	15－16	≧17
	アルベカシン	ABK	ABK	硫酸アルベカシン	30μg（力価）	E-DF70	1年6ヵ月間	*Staphylococcus* 属菌	≦13	14－17	≧18
マクロライド系	エリスロマイシン	EM	EM	エリスロマイシン	15μg（力価）	E-DF16	1年6ヵ月間	*Staphylococcus* 属菌 /*Enterococcus* 属菌	≦13	14－22	≧23
								肺炎球菌 /β溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦15	16－20	≧21
	ジョサマイシン	JM	JM	ジョサマイシン	30μg（力価）	E-DF46	1年6ヵ月間		≦11	12－15	≧16
	クラリスロマイシン	CAM	CAM	クラリスロマイシン	15μg（力価）	E-DF64	1年6ヵ月間	*Staphylococcus* 属菌	≦13	14－17	≧18
								Haemophilus 属菌	≦10	11－12	≧13
								肺炎球菌 /β溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦16	17－20	≧21
	ロキシスロマイシン	RXM	RXM	ロキシスロマイシン	15μg（力価）	E-DF61	1年6ヵ月間		≦9	10－20	≧21
	アジスロマイシン	AZM	AZM	アジスロマイシン ニ水和物	15μg（力価）	E-DG02	1年6ヵ月間	*Staphylococcus* 属菌	≦13	14－17	≧18
								Haemophilus 属菌	－	－	≧12
								肺炎球菌 /β溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦13	14－17	≧18
								髄膜炎菌	－	－	≧20
リンコマイシン系	リンコマイシン	LCM	LCM	塩酸リンコマイシン	2μg（力価）	E-DF47	1年6ヵ月間		≦16	17－20	≧21
	クリンダマイシン	CLM	CLDM	塩酸クリンダマイシン	2μg（力価）	E-DF02	1年6ヵ月間	*Staphylococcus* 属菌	≦14	15－20	≧21
								肺炎球菌 /β溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦15	16－18	≧19
テトラサイクリン系	テトラサイクリン	TC	TC	塩酸テトラサイクリン	30μg（力価）	E-DF17	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*Acinetobacter* 属菌	≦11	12－14	≧15
								Staphylococcus 属菌 /*Enterococcus* 属菌 / *V. cholerae*	≦14	15－18	≧19
								Haemophilus 属菌	≦25	26－28	≧29
								肺炎球菌 /β溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦18	19－22	≧23
								淋菌	≦30	31－37	≧38
	ドキシサイクリン	DOT	DOXY	塩酸ドキシサイクリン	30μg（力価）	E-DF27	1年6ヵ月間	腸内細菌科	≦10	11－13	≧14
								Staphylococcus 属菌 /*Enterococcus* 属菌	≦12	13－15	≧16
								Acinetobacter 属菌	≦9	10－12	≧13
	ミノサイクリン	MNO	MINO	塩酸ミノサイクリン	30μg（力価）	E-DF28	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*Acinetobacter* 属菌	≦12	13－15	≧16
								Staphylococcus 属菌 /*Enterococcus* 属菌 / *B. cepacia/S. maltophilia*	≦14	15－18	≧19
								髄膜炎菌	－	－	≧26
クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	CP	CP	クロラムフェニコール	30μg（力価）	E-DF29	1年6ヵ月間	腸内細菌科 /*V. cholerae/Staphylococcus* 属菌 / *Enterococcus* 属菌	≦12	13－17	≧18
								Haemophilus 属菌	≦25	26－28	≧29
								肺炎球菌	≦20	－	≧21
								β溶血レンサ球菌 /ビリダンスレンサ球菌	≦17	18－20	≧21
								髄膜炎菌	≦19	20－25	≧26
ポリペプチド系	コリスチン	CL	CL	＊硫酸コリスチン	10μg（力価）	E-DF09	1年6ヵ月間	*P. aeruginosa*	≦10	－	≧11
	ポリミキシン B	PL	PL-B	硫酸ポリミキシンB	300U	E-DF10	1年6ヵ月間	*P. aeruginosa*	≦11	－	≧12
グリコペプチド系	バンコマイシン	VCM	VCM	塩酸バンコマイシン	30μg（力価）	E-DF71	1年6ヵ月間	*Enterococcus* 属菌	≦14	15－16	≧17
								肺炎球菌 /β溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	－	－	≧17
	テイコプラニン	TEIC	TEIC	テイコプラニン	30μg（力価）	E-DF96	1年6ヵ月間	*Staphylococcus* 属菌 /*Enterococcus* 属菌	≦10	11－13	≧14
キノロン系	ナリジクス酸	NA	NA	ナリジクス酸	30μg	E-DF01	2年間	腸内細菌科	≦13	14－18	≧19
								髄膜炎菌	≦25	－	≧26
	ピペミド酸	PPA	PPA	ピペミド酸	30μg	E-DF51	2年間		≦12	13－15	≧16
	シノキサシン	CIN	CINX	シノキサシン	100μg	E-DF30	2年間	腸内細菌科	≦14	15－18	≧19
	ノルフロキサシン	NFX	NFLX	ノルフロキサシン	10μg	E-DF40	2年間	腸内細菌科 /*Staphylococcus* 属菌 / *P. aeruginosa/Enterococcus* 属菌	≦12	13－16	≧17

系統	販売名	KB ディスク紙略号	構成試薬	成分名	薬剤含有量	製品コード	有効期間	適応菌種	判定基準：阻止円の直径（mm）		
	KB ディスク®‘栄研’								耐性	中間	感性
キノロン系	オフロキサシン	OFX	OFLX	オフロキサシン	5μg	E-DF52	2年間	腸内細菌科 */P. aeruginosa*	≦12	13－15	≧16
								Staphylococcus 属菌	≦14	15－17	≧18
								Haemophilus 属菌	－	－	≧16
								肺炎球菌 /β 溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦12	13－15	≧16
								淋菌	≦24	25－30	≧31
	シプロフロキサシン	CIP	CPFX	塩酸シプロフロキサシン	5μg	E-DF56	2年間	腸内細菌科 */Staphylococcus* 属菌 */Enterococcus* 属菌 */P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌	≦15	16－20	≧21
								Haemophilus 属菌	－	－	≧21
								淋菌	≦27	28－40	≧41
								髄膜炎菌	≦32	33－34	≧35
	ロメフロキサシン	LFX	LFLX	塩酸ロメフロキサシン	10μg	E-DF63	2年間	腸内細菌科 */Staphylococcus* 属菌 / *P. aeruginosa*	≦18	19－21	≧22
								Haemophilus 属菌	－	－	≧22
								淋菌	≦26	27－37	≧38
	トスフロキサシン	TFX	TFLX	トスフロキサシン	5μg	E-DF62	2年間		≦16	17－21	≧22
	レボフロキサシン	LVX	LVFX	レボフロキサシン	5μg	E-DF76	2年間	腸内細菌科 */P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌 / *S. maltophilia/Enterococcus* 属菌 /肺炎球菌 / β 溶血レンサ球菌 /ビリダンスレンサ球菌	≦13	14－16	≧17
								Staphylococcus 属菌	≦15	16－18	≧19
								Haemophilus 属菌	－	－	≧17
	パズフロキサシン	PZFX	PZFX	パズフロキサシン	5μg	E-DG08	2年間		≦15	16－18	≧19
	ガチフロキサシン	GFLX	GFLX	ガチフロキサシン	5μg	E-DG07	2年間	腸内細菌科 */P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌 / *Enterococcus* 属菌	≦14	15－17	≧18
								Staphylococcus 属菌	≦19	20－22	≧23
								Haemophilus 属菌	－	－	≧18
								淋菌	≦33	34－37	≧38
								肺炎球菌 /β 溶血レンサ球菌 / ビリダンスレンサ球菌	≦17	18－20	≧21
	プルリフロキサシン	PUFX	PUFX	UFX[注]	5μg	E-DG09	2年間		≦12	13－15	≧16
	モキシフロキサシン	MFLX	MFLX	塩酸モキシフロキサシン	5μg	E-DG12	2年間	*Staphylococcus* 属菌	≦20	21－23	≧24
								Haemophilus 属菌	－	－	≧18
								肺炎球菌	≦14	15－17	≧18
	ガレノキサシン	GRNX	GRNX	メシル酸ガレノキサシン水和物	5μg	E-DG13	1年間	腸内細菌科 */Staphylococcus* 属菌 / *Enterococcus* 属菌 */P. aeruginosa* / *Acinetobacter* 属菌	≦13	14－16	≧17
								Haemophilus 属菌	－	－	≧17
								肺炎球菌を含むレンサ球菌	≦10	11－13	≧14
								淋菌	－	－	≧23
	シタフロキサシン	STFX	STFX	シタフロキサシン水和物	5μg	E-DG14	2年間	腸内細菌科 */P. aeruginosa/Acinetobacter* 属菌 / *S. maltophilia/Staphylococcus* 属菌 / *Enterococcus* 属菌	≦15	16－18	≧19
								Haemophilus 属菌	－	－	≧19
								淋菌	－	－	≧34
その他の合成抗菌薬	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	ST	ST	スルファメトキサゾール	23.75μg	E-DF86	2年間	腸内細菌科 */V. cholerae/Staphylococcus* 属菌 / *Acinetobacter* 属菌 */S. maltophilia/B. cepacia*	≦10	11－15	≧16
				トリメトプリム	1.25μg			*Haemophilus* 属菌	≦10	11－15	≧16
								肺炎球菌	≦15	16－18	≧19
								髄膜炎菌	≦25	26－29	≧30

注）6-fluoro-1-methyl-4-oxo-7-(1-piperazinyl)-4H-[1,3]thiazeto[3,2-a]quinoline-3-carboxylic acid

・構成試薬名は、日本化学療法学会の略号と同じである。

・薬剤の系統は、日本化学療法学会に準じた分類である。

＊・判定基準は、CLSI Document M100−S19及びその他の文献を参考に作成している。